館林市総合計画審議会　第４回経済と都市の部会　議事録【概要】

１　日時

令和２年７月８日（水）午後１時３０分から午後５時００分まで

２　場所

館林市文化会館　会館棟２階３号室

３　出席者

【審議会委員：１０名】

荒川博人委員　石井雅子委員　市川顕委員　金子悟委員　佐藤聡委員　中村喬委員　三田英彦委員　櫻井正廣委員　川村幸人委員　蓼沼直治委員

【策定事務局参事：１３名】

産業政策課長　都市計画課長　安全安心課長　農業振興課長　商工課長　つつじのまち観光課長　道路河川課長　緑のまち推進課長　建築課長　区画整理課長　農業委員会事務局農地係長　群馬東部水道企業団係長

【事務局：３名】

企画課長　政策推進係長　政策推進係職員

４　会議内容

⑴　開会

⑵　委員の意見等に対する回答

事務局より前回部会の中で回答できなかったものについて説明を行いました。

委員の皆様からの主なご意見・ご質問、審議結果は以下のとおりです。

・若年層の市外流出について、流出を止めるだけでなくもっと魅力的な環境を整えるということで議論をしていた。例えば学校教育、医療。この辺りがしっかりしていると必要条件くらいは満たしてくる。学校のキャリア教育云々とあるが、これで乗り越えられると考えているのか。きちんと整合性を考えながら修文をしてほしい。

・プレイヤーという表現をアントレプレナーに直すという意見が出ていたが、これはアントレプレナーに直すのか、創業者に直すのかが聞きたい。

⇒創業者に修正する。

・アントレプレナーというのは新しいものにチャレンジしていく冒険的な起業家で、もちろん創業者という意味もあるが、創業者というよりも、従来から取り組んでいる人たちが新たなものに挑戦するという意味では起業家でいいと思う。

⇒確かにアントレプレナーという言葉を見ると起業家という意味で出てくる。ここでいう新しい業種というより、元々ある事業を継承するといった意味合いで創業と訂正をさせていただくような内容になっている。

・これは併記ではダメなのか。アントレプレナーはどちらかというと起業家を指して使う言葉である。創業者となると有名な会社を作った人という言葉になってしまう。そうなると、今から館林市民が一人で創業者になることは難しい。
⇒持ち帰り検討する。

・館林全体の遊休不動産の数字をこの指標に入れてほしいという意見について、入れるかどうかは任せるが、その理由が館林全体の遊休不動産の数字を把握することが困難なためというのはどうなのか。
⇒遊休不動産数は日々動いていて、基本的には把握しているのだが、あくまでここでいうのは市が関わったところでの物件ということになっている。

・スマート農業も単なる大型機械化というだけでなく、根源的なスマート化を図ってほしいという意見で、回答としては IoT や ICT を活用したという文言を追記するとあるが、言葉のカテゴリーだと IT とか ICT は同じである。その辺りを整理し、もう一度検討をしてもらえれば。
⇒実際には、館林に合ったスマート農業を進めていきたいと考えている。今、実証実験をしているのが、カメラを使った、ICT を使ったということで進めているが、これは館林独自のことである。それと、テレワーク等、大型機械だけでなくそういったことも農家の方とやってくといいのではという意見もあったが、そういった意味で館林独自の IoT と一般的な情報通信技術、これを２つ入れたところである。ただ、表現については検討をする。

⑶　前期基本計画素案の審議、指標素案の審議
事務局より前期基本計画素案、前期基本計画指標素案リストについて説明を行いました。
委員の皆様からの主なご意見・ご質問、審議結果は以下のとおりです。

■まちのにぎわい
・例えばテレワーク等の環境整備はこの分野に出てくる気がする。要するに、まちのにぎわいのために新しいビジネスモデルをつくることがあるかと思う。前回、前々回と議論がされていて、他の委員からも同様の指摘があったかと思うが、この辺りはどう考えているのか。これは千載一遇のチャンスなので、もっと明確に走れるような表現の方がいいかと思う。
・切り口は色々あるかと思うが、地理的に都心から少し離れていても仕事ができる環境というのは館林にとってかなりフォローの風だと思う。
⇒テレワークや ICT 等に関わることを労働環境あるいはまちのにぎわいの観点で取

り入れたらどうかという意見があった。これについては持ち帰り検討をし、後ほど回答をさせていただきたい。また、教育に関する部分も教育委員会の担当課と調整をさせていただく。

・この分野で注目すべき点はコンパクトシティとウォーカブルなまちづくりをはっきり打ち出しているところである。ウォーカブルでコンパクトシティを目指すのであれば別にスマートシティでもいいのではと思っている。スマートシティという言葉を入れれば自ずと ICT も含まれてくる。どんなまちにしたいかというベクトルを考える時に、館林ではコンパクトシティとウォーカブルの２つしか載っていないけれども、ベクトルを増やさなくていいのか回答をしてもらいたい。

・ICT は畑の真ん中であってもできる。そういうワクワクするようなことを館林として追求しようというメッセージをもっと明確に出してもいいのでは。また、歴史的に魅力のあるコンテンツ等がある訳なので、そういったものも入れ込みながら、歴史があり、文化があり、里沼があり、そういった中で最先端の情報にもアクセスできると。そういうワクワク感をどこかで出してほしい。

・時代認識という言葉があるが、それが欠けているというか薄い部分がある。やはり、これから地方都市が発展していく絶対的なキーワードはスマートシティになると思う。館林は全国に先駆けて作ると。このキーワードを是非入れていただければ。

・新しいゾーニングの概念というか方向性があると館林が動いているように感じられる。

・全国で道路を拡幅して商店街が活性化した例は一例もない。つまり、まちづくりは道づくりではないということである。それと、IT 技術者は妖精の如く魅力的なまちに集まってくるが、今館林には一匹妖精がいる。その人が館林は良いぞと発信してくれるようなまちになると館林は賑わうので、ICT、IT という表現を入れるようお願いをしたい。

・館林は食べ物の会社が多いと思うので、フードバレーという言葉を盛り込み、皆がつながるようなメッセージを入れてもらえれば。

⇒スマートシティの観点について意見があった。ウォーカブルなまちづくりを進めているが、ポートランドのようなことだけをやる訳ではない。まだ内部の検討段階であるが、歩く人がいなければ始まらないということで、人口減少対策や商業振興、

そういったものをどう生かしていけばよいかということも考え、ウォーカブルなまちづくりを進めている。ただ、それを具体的にどこまで書けるのかについては検討をさせてほしい。また、中央通り線の事業についても拡幅と合わせて施策を打つことで振興になるかと思うので、ハード整備だけではなく、合わせて活用を図れればということで検討をしている。

・今話したことはすごく魅力的なことだと思う。我々がずっと言っていることは今みたいなことを持っているのだから、それをここに文章として反映しないと、後世の人間は文章を読むことしかできないので、できるだけ反映をしてほしい。

・日本の住所の書き方は世界的に見て変わっている。海外に行けば、〇〇ストリート〇番となっている。だから、海外の都市はウォーカブルになりやすい。もしウォーカブルにするとなると、その考え方をある程度変えていかないといけない。つまり何とか通りの魅力化とか、先ほど言っていた新しいゾーニングというのが必要になってくるので、内部で検討をしてもらいたい。

■土地利用

・館林の具体的な都市計画マスタープランを知らないので、簡単に解説をしてほしい。

⇒都市計画マスタープランについて、これは市町村が定める、その都市計画区域の土地利用の方針や都市施設の整備等、いわゆる都市計画を定めるときの最上位計画となっている。そこで示されたゾーニング、例えば館林でいうと市街化区域と調整区域があるので、市街化区域内の土地利用としてここは住宅、工業といったことで決めておき、それに沿った形で運用をしていくことになる。つまり、マスタープラン上にないところで急に用途を変えるといったことはできない。また、都市計画道路をどう整備するかなど、方針を示しておく都市計画の決定、変更の基本となる方針となっている。

・用語の説明ではなく、館林が具体的にどのような特色のある都市計画を作っているのか。それがどういう形で進んでいるかという説明をしてほしい。

⇒これは具体的な事業が細かく載っているものではなく、あくまで現況の課題を把握し、今後１０年２０年先の都市をどのように作っていくかということが載っている。

・そうすると館林の独自性はマスタープランでは示されていないということか。

⇒館林独自のというと、当然、自然環境を踏まえた上で都市計画を運用していくとなっているが、自然環境で言えば郊外の方が多かったり、必要な景観を守っていこうということになると思うが、その先の具体的な整備までは踏み込んでいない。

・そうするとウォーカブルやコンパクトシティ等、ここに書かれていることはマスタープラン上には載っていないのか。

⇒それぞれ方針は書いているが、細部までは書き込めていない。

・六次の基本構想、基本目的の中では安らぎを与えてくれる自然環境と快適に暮らせる都市機能の調和が図れていると現在形で言い切っているが、本当にそうなのか。
⇒現状においても豊かな自然環境については都市計画制度で保護をされている。それを前提に今守られているものをこの先も守っていくということで作られているので、これを変えてしまうような都市計画は基本的には考えられないものである。維持をした上で必要なものはあらかじめ位置付けておき、計画を進められるものは進めるという方向性を出すためのマスタープランとなっている。

・ゾーニングについて、例えば昔で言えば長屋ではないが、そういう横丁の一部分に、自分で手作りをできるものを作って商売なりをしていきたいという方が集まれるような、都市機能全体を変えていくのではなく、部分的に変えていくことはできるのか。
⇒中央通り線が整備されてそのまま商売を続ける方もいるし、一切やめて空き地になる場合もあるが、そういったところの活用の意味で新たな起業家の方が出やすくなるような取組みはしなければならないというような話も出ている。中央通り線に限ったことではないが、空家、空き地のまま残して自由に使えるようにするのか、空き家を活用してリノベーションして使いやすくするのかということを含め、先ほど出ていた人が集まれる場所を作っていくことも必要かと考えている。

・観光課がサイクリングターミナルの活用について募集をしていて、興味があり応募をした。ターミナル内に素晴らしい景色が見えるレストランがあるが、レストランとして活用できないという話があった。それがどうしてかと言うと、ターミナルは宿泊場所なので、宿泊者のみがご飯を食べる場所としか使えないという返事があったのだが、そういったことだと思う。せっかく素晴らしいレストランとして機能できるところを都市計画に合わないためにできない。そういうところを見直してもっと生かせるような都市利用を考えてほしいと思う。
・一人一人の付加価値を上げていこうという中で、そういった規制緩和も必要である。
⇒ターミナルは宿泊施設ということで許可しているもの。活用法を検討する中でレストランだけやろうということにもならないという事情がある。ただ、活用について方向性が出れば、どのような許可ができるだとか、そういう検討になるのではと考えている。

・素案の中に規制緩和の一節を入れることはできるのか。例えば、館林の産業振興のためには規制緩和も辞さないという強い姿勢を打ち出すことは可能か。
⇒今の都市計画的な前提で言うと、基本的にはコンパクトシティになっている。なぜ

かというと、これから人口減少が進むことが明らかな中、数十年後例えば２万人人口が減る中で、今の市街化区域でさえ維持できない時代が来るであろうとされている。当然、市の管理する公共施設も全て管理できないだろうということもあり、部分的に必要なものについては検討をしたうえで緩和をすることになると思うが、広い意味で規制緩和というと書きづらいという認識でいる。

・東京都港区は財政状況が良く、大企業の本社が幾つもある。その大企業の本社が、会社のフロアのうち３分の１、５分の１が要らない、後はリモートでいいと本気で言い始めている。

⇒市としても危機感を感じていて、方向性とすると土地の面積をこれ以上増やすのではなく、中心部で余っているところどうするかということが重要であると思っている。規制緩和も必要に応じてやるのだが、内部の土地をどう動かすのか、空き家空き地をどうすれば動いていくかを考えた方がいいのではということで研究検討をしている。

■道路・交通

・高齢化が進む中では交通弱者の増加がどうしても課題になってくるかと思うが、それに対して歩行者や自転車に配慮した安全安心に移動できる道路空間という話があるものの、上手く公共交通と関連付け、施策の方向に入れ込んでいく必要があるものだと考える。

・これから自然環境と都市機能の調和ということを謳うのであれば、この辺りにもきちんと入れた方が良い。交通渋滞の解消や交通ルールの順守、公共交通ネットワークの再構築等々、読みにくいのだが、本当はスマートシティやコンパクトシティについて丁寧に議論をした方がいいのではと思う。いくつかの制約がある中で、非常に微妙な単位になるかと思うが、方向だけでも示した方がいいかと思う。

・前橋でテストが始まると思うのだが、前橋市とドコモが組み、今いる場所から行きたい場所にどう公共交通を乗り継いていくと一番いいかという移動のプログラミングが全国で始まろうとしている。公共交通ネットワークの在り方が、現実に数年後くらいにはできてくる。となると、検討に努めるというより力強い言葉で書いた方が良いのでは。

・車の数が多いということはポテンシャルが高いので、高齢者への配慮等、優しいまちにかかってくる。やはり ICT 化、テクノロジーを取り入れてほしい。

・館林全体でスマートシティをきちんとつくっていくという構想がない限り、一部分

で修正してもそれほど役立つようなものはできないと痛感している。先ほど時代認識という言葉を出したが、今の時代はデジタルプラットフォームであらゆる取引、あらゆる情報がやり取りされるような時代である。総合計画審議会の素案で問題意識を持って、テクノロジーの発展に伴って世の中が変わり、行政も変わるということをしっかり反映させたような形で取組んでもらいたい。

・内閣府のスーパーシティ１０項目の中に一つ無人運転というものが入っている。無人運転は技術的には可能なレベルに来ているので、あとはどう社会実装するかだけである。公共交通機関の充実プラス徒歩で安易に行けるということが重要である。恐らく５年１０年というスパンで考えたら、自動運転はかなりのレベルでやれているはずである。そのような時に素案にあるように公共交通ネットワークの在り方を検討するとなると、時代がもうすぐきてしまう。
⇒記載については意見を踏まえて検討をしていきたいと思う。

■居住環境
・素案に群馬東部水道企業団とあるが、館林の水道の状態と、今後水道事業を民営化する可能性はあるのかという大きな方向性について教えてほしい。
⇒まず現状について、平成２８年４月１日をもって３市５町で共同出資をして、民間との連携という形の中で水道事業を企業団という形で発足している。将来の民営化については、今のところ現状を維持していく形で考えている。

・住みよさランキングについて、館林の順位が２００位代から４００位代まで推移しているが、どのように受け止めているか。
⇒住みよさランキングについては東洋経済が出版している都市データパックに掲載がされている。この指標は総合戦略の方で使っている。平成３０年度では４４２位というのが実績値であった。つい最近のものでは２４０数位まで上がっている。分析してみると指標がまた少し変わっていて、そういったことが毎年繰り返されているのだが、これについては例えば人が集まってくるとか、安心して暮らせるとかそういった指標を用いているので、その辺りは注視しながら総合戦略、総合計画を実施していくことになると考えている。
・例えば太田、高崎、前橋、佐野との比較はしているか。
⇒太田は群馬県内では上位である。これはやはり工業出荷額が高いということがある。館林においては食品業界が多いこともあり、平均して良くなっているところがある。まだ分析が足りないのだが、やはり東洋経済の指標の変化によるものなので、ある一定の順位というのは受け止め、指標の分析がどういうように変わったかはよく見ていきたいと思う。

・指標を作ってランキング化すると、指標が悪いのでこんな順位になってしまうと皆言うのだが、館林はどのような指標で測られたいのか。
・２００位代から４００位代に落ちたときに、なぜかということを調べた。今まで持ち家があるまちがよかったのだが、今は不動産下落があるので価値がないとなった途端に順位が落ちてしまった。それと、他市のように大きな会社がない。という意味では館林に納税する法人が少ないというところだとすると、工場だけ誘致しても裕福にならないと分析をした。

・施策の方向としてハード整備にスポットが当たってしまっていると感じる。しかし、居住環境のニーズを考えると、単純に住宅を供給すれば人が入ってくるのか住み続けてくれるのか、それだけではないと思う。どちらかというとソフト面に重点を置いていくということが結果として居住環境の良好さにつながってくるかと思う。
⇒先ほどのウォーカブルなまちの推進の中で、単なる通りだけでなくまちなかの賑わいが居住環境にもつながるのではという話もあったので、居住環境の分野にウォーカブルなまちづくりというようなことが入れられるかどうか担当課と検討をする。
・高齢者が住みやすいということはウォーカブルと少し矛盾してくると思うが、高齢者や子育て世代等に、館林のような暑い街を歩かせるわけにはいかないと思う。だからソフトが必要だと他の委員が言っているはず。これは持ち帰って検討してほしい。

・居住環境がどれだけいいかということは移住者に対するアピールにもなるかと思う。ここはテーマとして建築課、区画整理課等、ハード面の部署が扱っているところであるが、他の都市から見ても住みやすいと思われる居住環境を目指すという文言が一つあると他の部分との連携も比較的取りやすくなるのではないか。
・他市と競争関係にある中、あえて館林に住むためには、選ばれる都市にならなければならない。郊外に住みたいとなったときに、そのような市は山ほどある。そういった意味でどのようなソフトを、住みやすさを提供するのか。
・友人が全国にいるのだが、館林は食べ物も美味しいし、何よりも豊かな自然があってと良いところだと皆褒めてくれる。逆に館林に住んでいる人がもっと自信を持って PR したらよいのではと思う。
・館林は山がなくていいと言っている人がいた。山は維持費がかかるし、今は風光明媚な場所はリスクであって、館林は山も海もないのでこんな安全なまちはないという見方もある。

■　公園・緑地

・ガーデンシティという用語が使われているのだが、この言葉はどれほど価値のあるものなのか。
・施策の目的に災害時における避難場所として活用できる防災機能を備えた公園とはどのようなものか教えてほしい。
・かつてアメダスがあった場所と、美術館近くの林辺りで温度を測ると３度以上違っている。緑地は人間を救うので、そういう意味でも温暖化防止に貢献するような、そういう文言があるといいのでは。
・これだけ緑を全面的に押し出してくるのであれば、カーボンフリー等の表現を使って、二酸化炭素吸収源をしっかり持っているとアピールできてもいいかもしれない。
・施策目的の中で、野鳥がさえずるだとか心の潤いといったことが書かれているが、ある意味ではリスクにもなってくるので、その辺りも書いておいた方がよいと思う。
・以前、市長と話したときに、十勝平野は野鳥がさえずらないと話していた。要するに農業をやっているのだが、あれだけ化学肥料と農薬のついた農業をやっていると虫がいなくなって、野鳥がさえずらなくなってしまった。だから有機農業が館林で重要だと強く言っていたので、恐らく有機農業に紐づけられることなのではと想像する。
・ガーデンシティという施策も分かるが、昔から現状が変わらないままのような気がする。

⇒ガーデンシティについて、これまでは水と緑、花と緑という形で来ていたのだが、この中で今回は市民協働を強く押し出していきたいという中で、街をあげて庭のようなガーデンシティを進めたいという意味合いを込めてこの言葉を選んでいる。

⇒避難場所としての公園について、今市内の公園は指定避難所になっている公園と、そうでない公園がある。一次避難的にとかそういったものもあるのだが、長期的にとなると広場を使っての避難生活だとか、そういったことが大きな災害を経験した中で出てきた。そうすると、今の設備や体制ではそこを十分捉えられない。また、今は業者に委託をして公園を管理しているのだが、館林の公園は長く緑を大切にしてきたがために巨木化してしまって、扱えなくなってきてしまったということも実はある。そういったものを再編したりする中で、配置された樹木を避難生活用の薪としてストックしてはどうかという提案をもらっているので、そういったことに取組んでいる。公園は身近にあるので、避難所としても活用ができるように考えている。
⇒Co2 について、やはり温暖化の問題はある。環境の分野でもそういったことが触れ

られているかと思うが、ここの文言を加えるかは検討をさせてほしい。

⇒野鳥の問題について、確かにこれは市長も懸念している。館林には茂林寺の方に野鳥の森として指定をしている場所がある。昔はそこに多くの小鳥がいたのだが、やはり環境の変化だとか、低地林でもあるので、人が手を加えてどうにか保存をしている。それと、里沼といった中で、公園行政の中で少しでも自然を守るという意識を持っていかないと野鳥も減ってしまうということで、このような文言を入れた。

⇒カーボンフリー等、色々と話をいただいたが、その辺りは検討をして反映できればと思っている。

⑷　総合戦略素案の審議

事務局より総合戦略素案について説明しました。

委員の皆様からの主なご意見・ご質問、審議結果は以下のとおりです。

■産業

・付加価値が経済と都市の部会の根になる。これがどこにも出ていないが、資料４－２にはひとまとめにして出ている。しかし、前の数字と異なっている。１９００いくつというのも、令和７年度の目標値は上がっているが、この付加価値もこのレベルなので、躍動はしない。これからＩＴ化も進展していく中でほとんど進展がないということになっている。産業の所でそれを述べているのかどうか分からない。これが物理的な造形を目指しているのか、件数を言っているだけで中身がよく分からない。ただ数字を出すと、こうなるのかなという気もしないではないが、これを支える文字が見えてこない。

・新規団地の造成と拡張が、どこを目的として調整して、何のためにやるのかというところが盛り込まれると分かりやすい。

・新規団地と既存団地で、どんな企業を呼ぼうとしているのか。既存団地で、単なる既存のやり方で拡張を望んでいるのか、その辺りがどういうイメージなのか解説をお願いしたい。

・新規団地の造成拡張と企業の誘致について、コンパクトシティと矛盾するところが出てきた時の解決策として、必要に応じた規制緩和といった文言を入れた方がよいかと思う。

⇒新規団地の造成と拡張について、産業団地の造成は上位計画の位置付けに基づき、整合性を図りながら、また、企業ニーズを踏まえた上で進めていくという形になっている。そのため、必ずしもすぐできるものではなく、計画的に進めていく考えである。KPI で目標値を設定しているが、直近でそういった企業のニーズがあり、この目標値に向けて新たな工業団地の造成を図っていくというような状況になっている。

・生産性向上とか、その辺りはきちんと入れた方がよいかと思う。
・せっかく産学官金連携強化まで書いているので、連携をしてどのくらい生産性が上がっていくのか具体的に議論をした方がよいと思う。
・東京都は１次産業従事者が少なく、第３次産業従事者が多いので生産性が高い。そういう発想をそろそろ東京に近い館林も持った方がよい。
・産学官金もいいが、やはり NGO、NPO というのもここに触媒として入るべきだと思う。

■商業
・館林ブランドで川魚を残しておくのかどうか。本質的に水質を改善し、売れるようにするのか。

・基本目的はいいと思うが、最後の重要業績評価指標で令和元年と令和７年が同じ数値となっていることについて説明をしてほしい。
⇒付加価値の話と同様に、客観的な統計の数字や減少額を踏まえ、現状維持ということで指標にしている。

・前回、政策の方向性にキャッシュレス決済のことを検討するという話があったので、戦略や KPI にも入るべきかと思う。

・館林ブランドについて回答があったが、館林としてどういうコンセプトを持ったものを作ろうとしているのかという話をしなければならない。
・館林ブランドの向上について、川魚だけでなく小麦もあると思う。どのようなブランドをどのように発信していくのかを教えてほしい。
・館林ブランドと城沼の水質の関係で、城沼周辺の異臭がすごい。データと今後のプランを聞かせてほしい。
・KPI と遊休不動産の誘致件数について、創業塾と空き家バンクを進めているが、現状のままでいいとは思っていない。目標値をもう少し上げた方がよいと思う。
・遊休不動産の活用と新規アントレプレナーの発掘。これをどう繋ぐか、役割は市にあるのではないか思う。これからのビジョンくらいは市が持っておくべきではないか。
⇒館林ブランドのコンセプトと、遊休不動産にかかわるビジョンについては、持ち帰り検討をする。

■労働環境
・高齢者に対する労働環境についてどのように考えているのか。
⇒ハローワークとの協力や、奨励金という形での環境整備を行っている。

・若年層の市内就職の促進について、人口が減っている中、若い人達がどんどん館林を離れてしまっている。ここの部分を強化してほしい。
⇒若年層に対しては市内企業の魅力を知ってもらうために、企業ガイダンスやLINEを使った情報発信等にも取り組んでいる。いずれにしても個別戦略と KPI が少し不足している、積極性が見られないという話もあった。これについては担当とよく協議して追加したいと考えている。

・労働環境こそ千載一遇のチャンスだと思う。例えば二次拠点など、そういうことをイメージしたまちづくりをすると面白いのではないかと思う。
・個別戦略で若年層の定着還流促進のためということがあるが、なぜ若者が他に行くのかというと、付加価値の高い企業が高い給料を出してくれるからである。市内企業の魅力を知ってもらうとあるが、館林の若者を惹きつけられるような魅力ある企業はどういう企業を想定しているのか教えてほしい。
⇒館林はどちらかと言うと、食品産業が多く集まっている。有名どころもあるが、そういったことがあまり知られていないということもある。地下水も豊富で災害に強いということが理由かと考えている。また、団地についても同様の状況である。

・前回、ＩＣＴの活用の話が話をして出ていたが、個別戦略の方で反映されていくといいかと思う。
⇒合わせて付け加えたいと考えている。

・勤労者向けの融資制度ということだが、圧倒的に館林が魅力的であるというが先である。それが学校であり就職環境であり、もしくはテレワークの環境整備であり、そういうところを明確に打ち出せば融資制度はなくてもよいのでは。
・多くの若者や子育て世代が都心から農村回帰している状況の中、彼らがどんな仕事をしているのかというと、例えばデザインであったり、ルポライターであったり、どこでもできる仕事をしている。雇用環境の向上の中で、市の頭の中には、市の企業に勤めてもらうという頭しかなさそうである。今後何年もの計画であるのであれば、少し目線を変えた方がよろしいかと思う。

■農業
・基本構想のところで、連携をもう少し前に打ち出した方がいいかと思う。担当が農業振興課、農業委員会、つつじのまち観光課となっているが頭にきちんと〇〇部を付けた方がいいのでは。例えば農業振興課と産業政策課が同じ部だと市民に分からないので、〇〇部××課と付けることで同一部の中の連携がスムーズになると思う。

・農産物の品質向上、ブランド化ということだが、販売経路をどうするかを書いた方がいいのでは。

⇒販売・販路の関係については総合計画の方で意見が出ていたので、個別戦略にも追加をする。農産物品質ブランド化については、農家だけでなく起業家、農業法人ということで、総合計画の中でも修正するが、そういった形で進めていく内容である。

・農業生産基盤の整備について、地域における中心経営体や担い手の育成とあるが、今までどのように担い手の育成をしてきたのか、そして今後どう育成をしていくのか教えてほしい。

⇒今までが認定農業者ということで、新しい情報を発信してどのような農業をやっていくのか、情報共有をしていた。ここ数年少し変わり始めたことが、やはり農家の方も年配の方を気にしており、建前論的な部分があった。そういった中でブレーンストーミングという手法を伝えた。最初は乗り気でなかったが、実際にやってみると館林の農業の将来を語り始めたということもあった。また、スマート農業に興味があるということもあるので、若い世代だけを集めて話をするという場面もあった。この他にも補助整備、区画化という話もある。今までは農家に通知を出したり、会議の時に少し説明したりということだったが、ここ数年は地域に行き、いつ説明会があるので来てほしいということをしている。最初は人数も少ないのだが、興味のある人に夜でも昼でも出向いて会議をし、熱を持って話すということで進めている。

・目標値は低いのではないか。

⇒一つはどうしても一次産業が衰退していく中で色々とチャレンジすることもあるが、圃場整備について地元におりて会議を始めている。令和５年から実際に工事が入るのだが、それまでに色々な下準備や調整、誰がどこで次はどう作るといったことで、時間がかかる。こういった現実的なところを見て、数値的にはＶ字のような形になっていない。今日お話ししている内容のものが動き出すことができれば、５年後にはまた違う数値が出てくるのかと思う。ただ、数値については再計算していきたいと思う。

・基本方向、農業の環境整備、付加価値の向上、これに対して全てがリンクしていることだが、どのような具体的な施策を考えているのか教えてほしい。

・掛川市がお茶じゃダメだという事で、オリーブの産地化を目指しているという事例がある。館林も何か一つ絞って産地にするというものがあると、関係者が増えて活性化するのではと思う。

⇒館林の産地で新しい物を取り組んでいる農家もいる。館林とすると、オリーブやシークワーサー、アボカドといったところである。それと、有機栽培、自然栽培に取り組んでいる方もいる。無農薬にチャレンジしたいということも話していて、今まで館林だとキ

ュウリや、ハウス栽培といったものを支援していたのだが、昨年くらいからそういった新しい取組みも支援しようということで、フードシェッド立ち上げたこと、地産地消始めこともきっかけだが、バックアップしていきたいという考えでいる。

・個別戦略の中で農商工連携、６次化産業という言葉が出てきている。兼業農家で農商工連携や６次化産業は出来ない。やはり農企業が館林で生まれ、農商工連携や６次化を目指した事業マネジメントをやらない限り、絵に描いた餅に終わってしまう。基本は日本全国どこでも、農企業、農業法人をそれぞれの地域でしっかり育て農産物を作っていく、あるいは加工食品を作っていくことが求められているので、農企業を育てるというコンセプトを明確に入れてほしい。
・農商工連携、６次産業化、その通りだと思う。担当が農業振興課と農業委員会ということだが、これで本当にいいのかどうか。新しい連携、農業を盛り返させてくれるようなことが今後１０年求められていく。
・農商工連携、６次産業化という言葉の裏には、１次産業に農業があり、２次産業が工業、３次産業がサービス業。頭の中に我々が無意識的に階層を作ってしまっている気がする。しかし、委員の話を聞いていると、今後の館林の農業は、もしかするとサービス業かもしれない。農業というものを３次産業の目から見る、２次産業の目から見る。そして、一人当たりの生産性を高められるのか。もう一度整理のし直しも含め、検討してほしい。

⇒フードシェッドプロジェクトという地産地消のプロジェクトがある。今日集まっている経済部の全課が行政側に入っており、全員が事務局となっている。農商工連携、農業・商業、観光も入っている。そういった中で、実際色々始めている。例えば百年饂飩というものをやっている。これは市外の小麦で、実は地産地消ではなかったということが分かってきた。これを地元で「きぬの波」という小麦になるが、地元の農家に作ってもらえないかと相談したら作ってもらえるということ。そういった支援は農業振興課の方で行うということでお願いしている。また、農産物の残渣をつかったバイオマス発電も今実験で始めている。この他、商工課の方で六斎市というのをやっているが、これは地元の商店街と商工課の職員がイベント的に行っている。実際に農家の方に出してほしいということで、苺やトマト等を農家に持ってきてもらい売ってみると評判が良く、これも農商工連携の結果一つというところもある。観光の部分もあるが、ツアー会社も入り、例えば北海道の方で高校生とコラボをして地場産食材を使ったおせちを売り出しているという話もある。そういった情報も入ったので、会議で色々話し始めている。農商工連携と６次産業という言葉だが、実際に館林で動いていることは事実である。

■観光

・歴史文化を市が本気になり、どんなアセットがあるのか。行政としてどういう方向に何

をもっていきたいのかというのが、このような書き方だと理解できない。もう少し深堀していき、次の政策にそれが繋がっていく。そういうことをお願いしたい。
⇒個別の戦略の方で表記を入れられるかというところで、検討させてほしい。

・館林の一番のことは観光だと思うので、ここを重点的にずっと盛り上げてほしい。

・ＫＰＩとして観光ボランティアガイドの登録者数があるが、果たして適切なのか。
⇒現実として観光ボランティア、おもてなしという受入体制の中で、現在非常に高齢化で減っている、団体が弱体化しているところもあるので、あえて増加の形で指標に入れた。

・基本的方向である四季を通して愛される公園づくりについて、今、日本遺産の里沼をブランド化しているが、これがつつじのまち観光課だけでいいのかという問題がある。
⇒里沼に関連することでは、昨年モニターツアーということで民間のうどん屋に手打ちうどん教室をやってもらう等、そういった形で市内の事業者と連携しての体験型を考えている。団体等については、例えばバードウォッチングとかそういった形で団体にも協力してもらい、直々のそういったものを見れるような形で取組めたらということで記載をした。

・観光のブランド発信について、この中で館林の観光の目玉となるようなものが中々見つからない。市内でも開発すれば出てくるかと思うので、この辺りを加えてほしい。
⇒先ほどの歴史的資産等を含めた中での創出という形で強化できればと思っている。

・基本的方向に観光資源の創出と活用と書いているが、歴史文化に関して館林はポテンシャルがある。空き家問題とも関連するが、１０年後には築１００年となるような建物も残っている。このような部分にスポットを当てていない。観光資源の創出と活用の部分には、ポテンシャルをきちんと再発見するような文言を入れてほしいと思っている。
・つつじだけでなく、市のポテンシャルとして例えば榊原四天王もある。やはり、ツーリズムというのは周遊型がよい。例えば、夕日がきれいだと思った人は日本全国のきれいな夕日の場所に行く。すると、多々良沼にも行く。榊原家であれば、姫路に行き、館林に行き、周遊する。つつじというのはあるシーズンのある時期、２週間くらい、パッと見てパッと帰るだけである。なぜ、そこまで力を入れているのか。
⇒つつじについては、どうしても国名勝のつつじが岡という事でずっと守られてきたものとして書いている。また、素案にもあるように周遊型の観光ルートということで、年間を通して例えば、春先であれば花。また秋口になれば、食品会社が多いことから産業観光的なもの等も取り入れながらつつじ以外の年間を通した周遊ルートを作っていければと考えている。

■まちのにぎわい

・観光と似たようなものだと思うが、まずはハードの話だけでなく、先ほど出たポテンシャルや、今ある圧倒的な魅力効果、色々な文化・歴史、これを総合的に見ながらやっていかないといけない気がする。したがって、何も無理やり課題を課に落とし込まなくとも、まちのにぎわいや、観光資源の中で議論すべきかと感じる。

・私が子どもの頃は館林のまちはとても賑わっていた。人口的には今よりもずっと少なかったが、住んでいる者としてすごく楽しく賑わっていた。それが今はないということを考えてもらって、具体的な施策を出してもらいたいと思う。

・総合計画の素案でも触れられていたが、コンパクトシティ、ウォーカブルなまちづくり等、単なる計画のための作文で終わらせるようなことがあってはならないと思う。人口、税収が減る中で、今までの様な公共サービス、社会保障ができないという深刻な問題に直面するので、館林の特色あるまちづくりを考えてもらわないといけない。そこを腹に据えて文脈を作ってほしい。

⇒昨年、立地適正化計画を作っている。その中に施策もぶら下がっており、その施策というのがウォーカブルにも繋がったりする。こちらも危機感を持って動いており、逃げ口上で検討しているのではないということは理解いただきたい。

・担当のトップの所に企画課の名前があるように、まちのにぎわいというのは全庁的に取り組んでほしい。

・移住・定住の相談やＰＲの前に、どこを重点に増やすのかをしっかりとしてほしい。

・移住・定住の魅力、支援の受入体制のところで、市の魅力や移住・定住のＰＲをすることで移住者・定住者の増加につなげると書いてあるが、施策のＰＲをどのようにしていくのか聞かせてほしい。

⇒総合戦略の審議は、人口減少化社会にどういう戦略を練ればいいかということで、総合計画とは若干観点が切り替わっている。国からの義務ではないが、そういったものが示されている。審議の主となる所はやはり、本市との繋がりを築き新しい人の流れを作るというところで、個別戦略を行政で検討している。今まで審議してもらった総合計画から見ると少ない、足りないという指摘があるかと思うが、着眼点が若干変わってきていることを補足説明とする。もらった意見について、例えば東京の交通会館で本市独自の移住定住の説明会等を行なっている。これは団体に登録しており、そこに登録している人にダイレクトメールを出してもらい、参加してもらっている。そういった面で、その団体と協力しながらやっている。また、県も移住に力を入れてきているので、タイアップしながら東京でＰＲ活動を行っている。

・基本的方向で、技術と個性がある商店の集積となっているが、商店でなくとも、技術と個性がある人が集まればいいのではないか。

・基本的方向に、市民協働によるまちづくりと書いてあるが、果たして本当に市民と協働する気があるのか。そうであれば、市民と協働するためのシステムを構築しなければならない。もしくは助成金制度等、とにかく制度がないと動かない。館林というのは、私の知っている限りで言えば、かなり活動的で精神的な発想を持った市民が住んでいる。今ある規制を緩和してでも、条例を変えてでも市民との協働を本気で図ろうとしているのかが見えない。

⇒これについては、素案の現状と課題にあるようなまちなかのイベントの衰退といったところから、政策の目標に出てきたものである。まちなかのイベント、館林まつりや七夕まつりについては、既に組織作りができている。また、先ほど農業振興課長から、かごめ通りの六斎市という話があったが、商工課は携わっておらず、支援やＰＲ、そういった関わりを持っている。そういった中でまちなかのにぎわいを得るイベントは何ができるかということで、中央通り線の整備といったことや、歴史の小径をとおして今年度はマルシェというイベントを計画していたが、新型コロナウイルスの関係で頓挫している。そういったにぎわいを持たせるイベントを、市と共同で出来る組織作りを考えたものである。また、フードシェッドについても話があったが、この中でも軽トラ市といったものを農家の人達とまちの交流、そういったものが出来ないかということで考えている。

■まちのにぎわい

・婚活事業の推進のところで、結婚式場等のタイアップ等、成婚数の増加に加えて出生数の増加を目指すとあるが、館林に結婚式場がないにも関わらずこのような書き方だと正直ピンとこなかった。

・本市との繋がりを築くと書いてあるが、どこと本市が繋がっているのか。

・項目をあげて婚活の話を真面目に議論するのか。魅力ある都市にすることに本気になれば、ここは延長線上に出てくる。

・これを書くこと自体がオールドファッションだと思う。

⇒結婚式とのタイアップについて、野鳥の森にまだ結婚式場がある。また市内でも連携出来る所も模索しているところである。

⇒本市との繋がりについて、観光人口が交流人口、そこから関係人口というように、段々繋がっていくということで考えている。

⇒このページがいらないという意見もあったが、総合戦略上、人口が減少していくということになると、これは移動人口や交流人口を表しているので、総合戦略上外せないとこ

ろである。

⇒結婚・出産・子育てについても、人口減少、出生率を上げるイメージからしてもここはやはり必要な施策分野になってきている。そういった中で市として施策が打てるものとしては、現時点では婚活を支援しているものしかないが、今後よりよい施策を検討しながら進めていきたいと思う。

■道路・交通

・ウォーカブルなまちづくりとの連携をとっていくということなので、それをここに入れてほしい。

・ヨーロッパもポートランドもそうだが、車をハイスピードで走らせる場所とゆっくり走らせる場所が必要。ウォーカブルを謳うのであれば、町中の車を走らせるスピードは落として、どうぞ走ってくださいではなくて、走らせてやってもいい、そういう町中の道路があってもいいのではないかと思っている。

・公共交通ネットワークを検討するということであれば、やはりスマートシティの全体構想をしっかり持つ中で、IoT 等を使ってマネジメントしていくことが必要である。単なる要望を並べるのではなくて、本当にやるのであれば、その辺りを腹に据えて考えてほしい。

・せっかく国道１２２号が伸びて、３５４バイパスにぶつかったので、その周辺をもう少し盛り上げてもらえればと思う。

・今後１０年の道路交通を考えれば、道路交通の今後の高齢化や過疎化等を見据えて、かつ東京から志のあるテレワークでやりたいと思う人が館林に住むようになった時にどうするのか。KPI が交通事故と路線バスの利用者数、利用者数となっているが、もう少し出さないと抜本的なバス利用者数はあり得ない。

・本当にウォーカブルな都市を作ろうとしているのであれば、公共交通機関の拡充というのは絶対条件となる。放置自転車の適切な処理も結構だが、放置自転車をせざるを得ない市民の気持ちを考える必要もある。ウォーカブルシティと謳っていることと、ここに書いてあること、KPI が全部矛盾している。

⇒主に公共交通の関係で意見をもらっている。個別戦略の中で公共交通ネットワークの再構築については、館林都市圏公共交通網形成計画に基づくとしている。この計画は現在策定の途中であるため、ここの文章については国交省の手引きに沿ったものとなっている。次にＫＰＩの数値が低いのではないかという質問についてである。この数字については、他に出している数値と連動させている。

・どこと連動しているのか。

⇒他の路線バスの統計を出しているものである。

・その元データは戦略的データなのか、それともこうなるだろうというものか。

⇒後者である。

・先程、企画課からこれは戦略文書であると釘を刺された。この戦略文書のＫＰＩ値の目標値が、元データから引っ張られているという事は、戦略性がないのではないか。

⇒安全安心課として、ここの数値に持っていきたいという戦略的な数値である。

⑸　閉会